

7.20 美人の条件

いつの世も、美人は得をするというのを、信じて疑わない方々、それは本当でしょうか？
そもそも、美人と言われるためにはどのような要件が必要なのでしょう？

このたった二つの間に答えるのは、なかなか大変です。

まず、美人と言われるための要件について。

専門家の方々は、このように言っています。

「美人の基準は、時代や文化によって異なりますし、さらに、ある社会での一般的な美人像がその社会の全ての人に共通している訳ではありません。特に、価値観が多様化している社会であれば美人に対する基準にも個人差が大きくなるのが普通です。」

後半の部分は、「美人と思うかどうかは、人によって違う」と言っているわけで、これを言われてしまうと、美人の基準を考える気力が失せてしまいます。

でも、このことは実際にはとても大切なことで、他人がなんと言おうと、私にとって彼女は美人。という幸せな基準なのです。

そこで、とりあえず、後半部分はさておくとして、前半部分の「時代や文化によって違う」という点は見えておく必要があります。

では、昔々、平安時代の美人の要件は、どうなっていたか。

とはいっても、写真がない時代ですから、沢山の女性が登場する「源氏物語絵巻」等の絵巻物を見るしかないわけですが、専門家ならともかく、注釈なしでは誰が誰かわからない引目鉤鼻形式から美人の要件を引き出すのは、私にはちょっと難しい。

でも、幾つか素人でも言えそうなことがあって。

例えば、当時の美人は、今よりずっとふっくらしていた、あからさまに言えば太っていたことは間違いなさそうです。

えー？ 物語絵巻を描いた人の好みじゃないのー

いえいえ、これは、文章でも検証できるのです。

源氏物語で、最も醜女とされているのは、可哀想に「末摘花」だと思うのですが、彼女について、紫式部さんは、「痩せたまへること、いとほしげにさらぼひて、肩のほどなど、痛げなる」と書いておられるのですね。

これを読む限り、痩せた女性は、ほぼ全面否定されているように思えますよね。
下の絵は源氏物語絵巻「末摘花」（石山寺蔵…未許可）



えー、平安時代に生まれてきたらよかったのに、とってませんか？

さて、もう一つ言えることは、しなやかで、豊かで、長い黒髪。

これは、何をおいても美人の必須要件だったんですね。

牛車から少し外に出ている黒髪だけを見て、大騒ぎしている貴公子達の様子は、何カ所かに登場しますから、これも間違いなし。

ちょっとだけ見える黒髪に、興奮するって

黒髪フェチ？

今ならどうかなあ。美脚フェチかなあ？

最後に、もう一つ。

これは、絵巻物からはわからないのですが、

平安時代の美人と言われるためには、容貌や体型や黒髪だけでは足りず、高い教養、みずみずしい心、（優雅、上品、従順、慎み深い、控えめ）といった品性などが不可欠とされ、これらは美しいと判断されるのに不可欠の重要な要素でした。

文章として残されているものを読む限り、平安王朝時代の美人の条件は、「容姿ふくよか」、「長く豊かな黒髪」、「深い教養と品性」が美人の要件とされていたことは間違いのないようです。

しかし、その後、時代が、室町、鎌倉、戦国、江戸と下るにつれ、基本的に美人女性の体型はスリム化していくようです（男はふっくらの方がホントは好きだと思うんですけど）。

一方、黒髪の方は、大切な要件であることには変化が見られません。教養は余り深さを要求されなくなりますが、品性は依然として重要と考えられていたようです。

ところが、明治に入ると、西欧文化の影響が強く見られるようになって、美人像は、急変しますが、かといって、昔からの美人の要件も捨てがたく、結局のところ、究極の美人であるためには、両方の要件を兼ね備えることが必要になってきたようです。

次第に維新の世の中が落ち着いてきますと、美人の要件は、混乱化の時期を経て、厳格化の時代を迎えます。

まず、体型はさらにスリム化して「すらりとした姿」、「黒目がちの二重瞼」、「花の唇」、「緑の黒髪」、それに「気品」などが美人の条件になります。

顔立ちについては、従来の日本風に加えて西洋風の顔立ちも美人の範囲に入ってきます。

この時期になりますと、なんとと言っても、それまでと違って、美人と言われた方の写真が残っていますから、今でも評価が可能です。

明治の外相、陸奥宗光の奥方亮子さんなどは、西洋風美人で、今の私たちの目から見てもたいそうな美人と言えらると思います。写真



末広ひろ子さんは、明治 41 年に行われた美人コンテストで一位になられた方で、当時の小倉市長さんの令嬢。こちらの方は日本風美人です。写真



ただ、この末広さん、このことが元で学習院中等部を退学させられるのですが、このとき院長は乃木希典さん。

乃木さん、やはり品性を問題としたようです。

しかし、乃木院長は、後に彼女が自分でコンテストに参加したのではないということがわかったのか(ハンセイ?して)、みずから、彼女を当時の野津侯爵の子息のお嫁さんにお世話し、その媒酌人をつとめ、彼女は結果として侯爵夫人になるのです。

明治期の美人にも、教養と品性が要求されたと言うことでしょうか。

ところで、文学の上では、美人をどのように描いていたのでしょうか。

この点は、正直なところ、私には、荷が重すぎて、専門の文学者の方にお任せする以外はありません。

ただ、余り確信が持てませんが、かの有名な島崎藤村の詩「高殿(若菜集)」から抜粋した次の部分を読むと、「さやけき瞳のいろ」「紅のくちびる」「緑の黒髪」は、美人の要件の重要な要素となっていたことは間違いないと思います。吉井勇さんの「ゴンドラの歌」でもほぼ同じですからね。

きみがさやけき / めのいろも / きみくれなるの / くちびるも
きみがみどりの / くらかみも / またいつかみん / このわかれ

ところで、教養と品性は？

こちらも、些か強引ですが、与謝野鉄幹さんの「人を恋うるの歌」の中には、「妻をめとらば才たけて みめうるわしく 情(なさけ)ある」という理想が詠われていますね。

個人的には、鉄幹さん、ちょっと凶々しい感じがしますが、相手が晶子さんですから、これは許してあげましょう。

ちなみに、この写真は、恋に生き、みめ麗しく、才たけた歌人柳原燐子（白蓮。柳原伯爵嬢。）



ところで、今の美人の基準については？

教養と品性がなくても美人と言われることは確かですが、とても私には述べる知識も度胸もありませんので、これでおしまいです。

7.22 美人と幸せ

どうもこの世の中、美人に生まれつくともうでないのとは随分差があって、これが世の中で最大の不公平だと思っている女性が多いようなのですね。

でもね、主観的にはともかくとして、客観的にそうかと正面から問われると、今のところの私の答えは、私の知る限り、他人が思うほど美人は幸せに恵まれるとは限らないみたいだし、まあ、そこそこの容顔の方の方がハッピーな人生を送っておられるような気がするのですがね。まあ、私の知る範囲なんかタカが知れてますから、信用して貰っても困りますけどね。

ただね、美人にもほどというものがあるようで、絶世の美人といわれている女性は、悲しい人生を送った方が多いようですよ。

世界の三大美人と言われているのは、中国の「楊貴妃」、エジプトの「クレオパトラ 7世」、ギリシャの「ヘレナ」らしいのだけれど、この三人のうち、前二人は悲惨な人生の最後を迎えています。

「楊貴妃」は、ご承知の通り、安祿山の乱で玄宗帝と都落ち中に兵たちによって縊殺死。「クレオパトラ 7世」は、アクティウムの海戦に敗れたアントニウスが自殺した後、毒蛇(コブラさんです)に自らを嚙ませて自殺。

ところで「ヘレナ」って誰？

彼女は、ギリシャの最高神ゼウスさんの娘でスパルタ王妃。トロイの王子と浮気をして、トロイ戦争を巻き起こし、国を滅亡させてしまうとってもアホな女性です。浮気で国を滅ぼすなんてケシカランのですが、この女性、最高神ゼウスさんの娘で依怙最良されていて殺されないのです(ゼウスなんて単なるアホ親爺ですね)。私に言わせれば、誰が選んだのか知らないけれど、神様の一族をそもそも三大美人に入れるのはどうかと思いますけどね。

お隣の中国で四大美人と言われているのは、先の楊貴妃(唐)のほかにも、次の三人。

2. 西施(春秋時代)
3. 虞姫(秦末)
4. 王昭君(漢)

「西施」は、呉王の夫差を夢中にさせ、そのために呉の国は傾き、越に滅ぼされてしまい、彼女は生きたまま皮袋に入れられ長江に投げ入れられて殺されていますね。

「虞姫」は、英雄項羽に愛されるものの、垓下の戦いに敗れた項羽とともに、自刃したことは、前に申しあげました。(歌につれて「トリコロールとひなげしの花」参照)

「王昭君」は、彼女の美貌を妬んだ大奥の同僚の策謀で、国のために、匈奴王に嫁がされ、独り異国で孤独な死を迎えます。

わが国では、三大美人が誰なのかについては定説があるわけではないようですが、まあ、

敢えて言えば、小野小町クンは何となくみんながそう思っているみたい。でも、あとの二人は知らない人が多いと思いますね。

ちなみに、あとの二人は、「衣通姫」と「藤原の道綱の母」。これ通説？と言われると困るんだけど、一応、「衣通姫」は古事記と日本書紀に美人と書いてあるというのが根拠。「藤原の道綱の母」も、なんだか出典を忘れてしまったけれど、そういう記録があったと思います。

さて、わが国の美人として余り異論がない小野小町クンは、ついに幸せな結婚をすることが出来ず、ついに野辺に朽ち果てる運命を辿ります。

「衣通姫」はその美しさが衣を通り越して光り輝いたことから付けられた名前なんだけれども、愛した不倫の相手が実兄で、彼、失脚して流刑になるのだけれど、後を追いかけて行って心中する結末では、主観的にはともかく、とても幸せとはほど遠い。最後の「道綱の母」さんは、美人で名を残すというより、蜻蛉日記で名を残しているから、知ってる方もいるのでは？

蜻蛉日記を読むとわかるんだけど、この人、夫に次々と浮気されるし、夫のもうひとりの妻が産んだ子が藤原道長クン。自分が産んだ子の道綱クンは自分の名前しか読めないようなアホだったから、苦勞が絶えない。

残している歌も、

なげきつつ ひとりぬる夜の あくるまは いかにか久しき ものとかは知る

ですからね、どう見ても幸せとはほど遠い一生だったみたいですよ。

さて、これらのことからわかりますように、絶世の美人は、その多くが悲惨と言って差し支えない運命を辿っていますね。

どうしてでしょうかね？

でも、客観的にはともかく、絶世の美人の側は、自分を幸せだと思っていたのかどうか気になりますよね。残念ながら、諸外国の絶世の美人の告白に関しての知識は、私にはありません。日本の場合の「道綱の母さん」は、蜻蛉日記を読む限り、ちょっとどうですかねー。

小野小町さんとはといえば、次のような歌を作っていますから、絶世の美人であっても、普通の女性と同様、自らの思い通りに、恋を成し遂げられるわけではないことがわかりますね。

うたた寝に 恋しき人を 見てしより 夢てふものは たのみそめてき

もう一つ、これも同じ小野小町さんの歌。

色見えで 移ろふものは 世の中の 人の心の 花ぞありける

私は思うのです。他人が思うほど、美人は幸せだとは限らないのだと。

ところで、前回も書きましたように、「美人と思うかどうかは、人によって違う」わけです。

ですから、自分のことを好きだと言ってくれる人を一番大切に、こころの美人を目指

すことが、幸せになるために最も重要なことだと私は思うのです。
このことに気がつけば、世の中から離婚なんかは激減するはずなんですがねえ。

8.3 二本の箸がどんぶらこ

昨日、いつものようにNHKのお昼のニュースを見た後、そのままお茶を飲みながら次の番組「昼ブラ」をぼーっと見ていました。

冒頭、一畑電鉄の出雲大社駅、私の好きなバタ電のデハニ50が写って、おっ、今日は期待できるかなと思っていましたら、その後は散々でした。

NHKの最近のこうした番組の質の低下はひどいものがあると思います。

たった25分の放映で幾つか正しいとは思えない説明をした上に、ひどい間違いをしていたのが、縁結びのお箸屋さんでの紙芝居。

このシーンでは、お箸さんが、どうして縁結びと関係があるのかを説明するために、紙芝居を上演したのですが、これは、素戔嗚尊（スサノオのミコト）が八岐大蛇（ヤマタのオロチ）を退治する有名なお話を取りあげたものでした。

ご存じの方がおられると思うのですが、「古事記」によれば、高天原を追放された素戔嗚尊が出雲の国の鳥髪というところの川の畔を歩いていたところ、上流から箸が流れてくるのですね。

それを見つけたスサノオクン、この上流に人が住んでいることを知って、川を遡っていくと、一人の娘を挟んで老翁と老婆が泣いているのに遭遇するのです。

泣いている訳を聞くと八岐大蛇に8人の娘のうち7人まで取られて、最後に残った娘をまもなく差し出さなければならないことを悲しんでいたというもので、この後、有名な八岐大蛇退治の話が展開されます。

そのどこが問題？

細かいことのように見えるのですが、私が気にしたのは、川に流れてきた箸のことです。紙芝居では、川に2本の箸が並んで流れていました。

これホントに、出雲の国のお箸屋さん？

私には、ちょっと信じられなかった。

絶対にはないとは言えないけれど、川の上流から、2本の箸を流した場合、ものの百分も行かないうちに、2本の箸はバラバラになって、別々に流れると思いませんか？

今と違って、綺麗に削った箸とは考えられないから、1本の木の枝や竹の切れっ端が流れて来ただけで、素戔嗚尊クン、それが箸かどうか、どうして分かったのか？

少々乱暴で、粗忽なところがあることで有名なスサノオクン、よく分かったねえ、と思わないですか？

それよりも何よりも、それ以前の問題として、日本で二本の箸が使われるようになったのは、もっとずっと後のこと。

古代の神事に使われた箸は、1本の竹片を薄く削って、真ん中で折り曲げて、ピンセットのような形をしていたんですね。

ピンセットでは、イメージがわからないと言う方には、ゴミ拾いの時に使う「トング」のような形をしたものと言えれば想像が付きませんか。



(この写真は、お箸とは関係ありません。念のため。)

そういうものだから、粗忽なスサノオクンでも、川を流れてくるのを見ただけで、上流に神事を司る人の家があるって分かったんですよ。

別に、目くじら立てて、NHKのプロデューサーを非難する気はないし、縁結びを売り物にしているお箸屋さんに、紙芝居にするならもうちょっと調べたら、なんて余計なお節介をするつもりもないけれど、

みんなが見ているお昼の番組で、何も調べもせずに、ノーチェックで、堂々と川の流れて2本の箸を並べて流すような絵を出すような杜撰なことはして欲しくないのです。

古事記も読まず、神話のことも知らないのに、なんのチェックもしないで、出雲の案内なんかするんじゃないよ、NHKさん。と言いたくなってしまいます。

まさか、こんな調子で、原子力発電の事故の解説をしてるんじゃないでしょうね。

8.9 利き手と利き耳

利き手、利き足というのは良く耳にしますが、「利き耳」というのは余り聞いたことがありませんね。

「ききみみ」と言えば、隣は何をする人ぞ、「聞き耳」を立てるという言葉を思い浮かべるのが普通ですもんね。

ところが、手足だけでなく、どうも耳にも「利き耳」と言うのがあるらしいのです。私が昔見たのは、群馬大医学部の先生方が数千人の日本人男女に対して実施した「電話の受話器を当てる耳の調査」というへんなタイトルの調査結果でしたが、利き手、利き足と同様、耳にも利き耳というのがあって、右利き耳、左利き耳、両利き耳があるそうです。

ただ、手足と違って、利き耳の場合、右が圧倒的優位ではないようです。

私の利き耳は「右」。

電話の受話器をとって、自然に右の耳に当てるから、ほぼ間違いないと思います。

私のような「右利き耳」「右利き手」の人間には、今の電話機は不便の上ありません。電話をかけるとき、番号を右手でプッシュするため、受話器は左手で取らなければなりません。

相手が出ると、受話器は左手から右手に持ち替えられ、右耳に当てられるのですが、話の途中でメモを取る必要が出てくると、「ちょっと待って」と言って、再び受話器は左手に持ち替えられて左耳に当てられ、右手に鉛筆を持つことになります。

いやいやとても面倒なのはさておいて、どうも上手くいかないのが、メモを取りながら相手の言うことに真剣に耳を傾けなければならない場合。

右利き耳の私は、左耳に受話器を当てたまま、深く論理立ててものを考えるのが難しいのです。

その結果、左手で受話器を持って右耳に当て、右手でメモを取るという不自然な格好をしなければならなくなります。

数分で話が終わればいいのですが、そうもいかないときが多くて、右肩と右頬で受話器を挟んで通話を続けることになります。

この時、受話器のコードは電話機の左から出ていますので、コードは伸びきり、引っ張られて落ちてしまうという不幸な事態にしばしば見舞われます。

そこで、受話器が右についている電話機はないものかと調べたことがあるのですが、日本製にはありませんでした。

どうして？

どうも、昔の電話機は右に手で回すハンドルがついていて、これを数回回さないと通話ができなかったので、自ずと受話器は左についたのですね。この構造が今でも引き継がれているようです。



つまり、今の電話機は、「右利き手」「左利き耳の人」用の構造になっているのですね。

まあ、手足と違って「利き耳」の阻害率は低いから、殆ど問題とされないのですが、電話で重要な話或いは微妙な話をするときにはそうもいかない気がしますね。

右耳の神経は左脳に繋がっていて、左耳は右脳に繋がっていますから、楽しい話や悲しい話は、左耳ー右脳で聞いた方が良いのです。

でも、面倒な話や難しい話は、右耳ー左脳で聞く必要があります。

商売柄、左耳で聞いて怒ったり、カッカしていたのではどうにもなりませんからね。

で、結局どうしてるのかって？

今は、自分の部屋に子機を置いて、スピーカーホンをオンにし、受話器を置き台に横に置いて、それに向かって話かけるように喋っています。

便利？になりましたねえ。

さて話は違いますが、左利きと言えば、麻丘めぐみの「私の彼は左利き」。

昔、若い頃、可愛い麻丘めぐみちゃんのこの歌に

♪ 誰かに電話する時も する時も 私の 私の彼は 左利き

とあるのを聞いて、これ、右手で受話器を持って左手でダイヤルを回すことを言っているのだとすると、コードが邪魔になって実に掛けにくいと思うんだけど、ホントにこういうことを歌っているのか、作詞者に聞いてみようと思っただけですがね。

どう思います？

ところで、「サウス・ポー (southpaw)」というのは、左投げの投手のことですね。

どうして左投げが「サウス（南）」の「ポー（動物の前足）」か知ってます？

これ、球場は、太陽が、傾いたときに、バッターの目に日の光が入らないよう、投手（東北東）－打者（西南西）になるよう設計されているからなんですね。

すると、左投げの投手の手は、南（サウス）になるからと言うのが有力説のようです。

でも、私がポーで連想するのは、猫の前足。

ピンク・レディのピンクの前足で、ニャン、ニャン引っ搔かれるのを想像して、独りニヤニヤしていたのは昔のお話。

8.29 地方版ナビゲーション

私の使っているナビは、余り高価なものではないため、適切な指示かどうか少し怪しいものがときどきあるような気がします。



機械だからしょうがないかなと思っているのだけど、問題は、曲がれという指示を無視すると、いつまでも、いつまでも、しつこく元のルートに戻れという趣旨のルートを指示してくる。

しまいには段々腹が立ってきて、うるさい、黙れ、これでいいんじゃない！
と思わず叫んでしまう。
とくに、あの冷静な女性の声がいけない。

そういう経験ってありません？
私だけかな？

そこで思うのですが、ナビの声、地方の方言版をこしらえてみてはどうですかねえ。
これだと余り頭に来ないし、結構、売れると思うのですがね。

大阪弁版ナビ

- ①「もうちょい先、みぎい曲りやー。」
曲がらないでいると
- ②「曲がれ、て言うたやろ。　しゃあないなあ、こん先のカドウ曲んねんで。」
それでも曲がらないと
- ③「曲がれ、て言うるとるやないか、何で聞かへんねん。」
なお直進していると
- ④「もうええ加減にししいや。ナンボ言うたらわかんねん。いうこと聞かへんねやったら、もう知らんでえ。」

これだったらどうですかね。

運転者の合いの手（独り言）を入れると、こうなります。

- ①「もうちょい先、右い曲りやー。」
→「アホなこと言うたらあかんで。ここやったら、ものすごく遠回りやん。」

- ②「曲がれ、て言うたやろ。　しゃあないなあ、こん先のカドウ曲んねんで。」
→「やかましわ！　だまっとれ」
- ③「曲がれ、て言うるとるやないか、何で聞かへんねん。」
→「ワイ、アホな奴のいうこと、聞けへんねん。」
- ④「もうええ加減にしいや。ナンボ言うたらわかんねん。いうこと聞かへんねやったら、
もう知らんでえ。」
→「これ以上いうたら、どついたるでえ」

残念ながら、博多弁、秋田弁、名古屋弁は作れません。
どなたか協力してください。

ナビ会社の方、検討してみてくださいませんかね。

キャッチコピー
「ナビで学ぼう、××弁」

ちなみに、英語でナビも考えたのですが、事故多発のおそれがありますかねえ。

ええ加減にせえ！って

すみません。

9.30 眉唾の話

昨日散髪に行ったのですが、そのとき「お客さん、眉毛どうしますか？」と聞かれました。

「え、眉毛ですか？」

眉毛をどうするかって聞かれたのは、今回がはじめて。

聞いてみると、最近、眉毛の手入れをする人が増えているのだそうです。

そういえば、昔、「引眉（ひきまゆ）」という習慣がありましたねえ。

イヤ、昔と言っても、奈良時代ですけどね。

眉を剃る、又は抜いた後、細い弓形の眉を墨で描く。これが引眉。

続く平安時代には、細い弓形の眉の代わりに、額に楕円形の眉を描くようになりましたが、これは、「殿上眉」と言われています。

そう、源氏物語絵巻などでも描かれている、自分のことを「まろ」と言うお公家さんに見られるファッションですね。



ご承知の通り、眉毛は、額から落ちる汗や降ってくる雨などが目に入らないようにするという実質的な機能をもっています。

眉を剃り、殿上眉を描くのは、汗も雨も関係のない貴族の慣習なのですね。

あ、そうそう、江戸時代に入って、この習慣、嫁いだ女性に引き継がれますが、この場合、眉を引かず、剃るだけです。引眉とは言いません。

ところで、眉があるのは、人だけだということをご存じですか？

普通のほ乳類は、顔が毛で覆われているために、眉を判別できません。

顔に毛がないのは猿くらいですが、お猿さんには、眉がないのです。

人にだけ眉がある理由は解明されていないようですが、私は、こう思うのです。

(また、また妄想？)

(ええ、まあね)

眉は、人の心を映す機能を、秘かに与えられているのではないのでしょうか。

目は口ほどにものを言うといいますが、眉は、目に劣らぬほど、人の心を映し出します。

「眉毛を読まれる」という言葉は、相手に自分の心の本心を知られるという意味ですし、心に心配や気に染まぬことがあれば、「眉を顰め」ます。心配ごとが無くなれば「愁眉

を開き」、怒りに駆られると「眉をつり上げる」と言うじゃありませんか。
これらの言葉は、いかに私たちが、眉を見て、人のこころを読んでいるかを示していますよね。

それでも、人の中には、稀にですが、決して心の内を表さない鉄仮面のような方がいますが、こういう「眉一つ動かさない」人は、実は、決して信用されないのですね。

私は、平安時代の貴族達が、眉を剃り、殿上眉を描いたのは、必ずしもファッションだけではなくたのではないかと思っています。
厳しい権力争いの中で、本心を相手に読み取られないためには、眉がない方が良かったのですよ。

さて、今の女性達が、自分の眉を剃り、黛で眉を描いているのは、奈良時代の貴族と似たところがあると思いませんか？

まあ、今の若い女性達、額に汗をかくほどの力仕事はしないでしょうし、何よりも、自分の本心を男達に悟られないようにと言うことではないかと、疑いたくなりませんか？

ただね、私、このようなことを迂闊に言ったりはしません。

(言ってるじゃないか)

(いえ、いえ、ちゃんと？をつけてます。)

もし、そんなことを言って、本当にその通りだったら、今の女性達、「眉を顰める」だけでは済みません。「眉をつり上げ」、機関銃のような非難の言葉が飛んでくるのは必至。
美人の場合は、「柳眉を逆立て」て、罵られることになります。
まあ、眉毛が無いから、逆立てようにも、わからないのですがね。

最後に、突然ですが、モナ・リザのお話。モナ・リザに眉毛がないことはご存じですよ
ね。

モナ・リザが不可思議な表情をしているのは、眉が無いからだと思いませんか。



これまで、モナ・リザに眉が無い理由として、ダ・ヴィンチ君が描かなかったとか、まだ未完成でこれから描くところだったとか、いろいろと説明されてきたのですが、2007年に高解像度カメラによって、元々眉が描かれていた跡があることが発見されたそうです。

エリザベート夫人（モナ・リザ）、可哀想に、実は、修復・クリーニングの時に、眉を消されちゃってたんですね。

でも、眉を剃られてこんなに有名になったんだから、まあいいですかね。

ところで、以上の話、本当だと思います？

眉に唾をつけて読んでましたよね？

眉に唾をつけていれば、お狐さんには、眉毛の数を読まれないで済むそうですよ。

10.28 大学の授業参観の勧め

昨日、ちょっとした機会があって、某M大学で特別授業なるものをしてきました。

何を話したのかって？

それは内緒です。

私のような時代遅れの老人の話をおとなしく聞くほど、この頃の若い人たちはヤワではありませんから、大変です。

少数の国立大学の場合は例外だと思いますが、殆どの大学の場合、今の学生達は、教員の話に少しでも興味を失うと、私語はするし、携帯電話でメールを打つし、挙げ句の果てには寝てしまうなど、まるで無政府状態です。

教員の方は、どうしているかって？

工夫と努力はしているようです。それも涙ぐましいほどに。

でも結局、おそらく半数以上の教員は、学生の無反応に屈し、自分の教えたいことを一方的に話して授業は終わりということになっているのではないかと思います。

授業が面白くないからといって、授業を聞かない、出席しない、そんな学生達のために、年に数十万円に及ぶ高い授業料（私の頃には年1万2千円でした）を払っている親御さん達こそ、良い面の皮です。

それでも親御さん達がご子息を大学に行かせるのは、社会が大学卒に価値を認めているはずだという虚構のせいでしょうね。

しかし、少数かも知れませんが、目から鱗が落ちるような授業がありますし、自ら考えることこそが必要だと感じさせる授業もあります。心の奥に届くだけの熱意に溢れ、豊かな内容を持つ授業、私自身が受けてみたいと思うような、素晴らしい授業がないわけではないのです。

たとえ、一人だけであっても、尊敬できる師に巡り会えることは、その人の生き方を大きく変えることがあります。そのような貴重な機会をみすみす逃すようでは、その人にとっても、社会にとっても、大きな損失だと、私は思います。

そこで、私は、年に一度か二度で良いですから、ご子息たちが受けられている大学の授業を、親御さん方が参観することが必要ではないかと思っています。

高いお金を払って、大学に行かせる価値があるかどうか、スポンサーとしては、自分の目で確かめることが必要だとは思いませんか？

えっ、最近の小中学校のように、大学にも、モンスター・ペアレントが出てこないかって。

アー、それも困るなあ。

ぶるっ、怖っ。

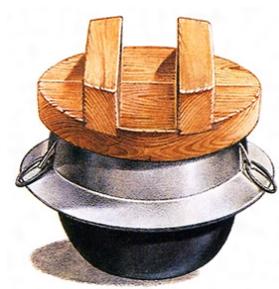
11.7 お鍋とお釜

先日、あるところで、鍋と釜の違いを聞かれたことがありました。

質問は、昔の本を見ていると、「鍋釜背負って（しょって）」という文章が出てくるけれど、どういう意味かという素朴なもので、それは今でいう「最小限の世帯道具を持って」という意味で、これに「掻い巻き」を加えれば、江戸時代は、独身男性の何もない長屋に転がり込んでもなんとか生活できたと説明したのですが、ついでに鍋と釜の違いを説明させられたのです。

私、正直なところ、ここしばらく、釜なるものを見ていないので、えーっと、と言いながら、怪しい絵（鏝がついた羽釜（はがま）に木製の蓋）を描いて説明をしたのですが、その絵では、電気釜が説明できず、風呂釜もダメで、若干苦しい思いをしました。

（下はお釜の絵。さすがに自分の描いたものは載せられず、ウィキペディアから。）



家に帰った後、釜の説明をした資料を探し出したり、インターネットで調べたりしたのですが、結論から言うと、インターネットの説明はどれもひどいもので、全く信用するに足りませんでした。

ちなみに、インターネットでの典型的な説明は、次の通り。

- i 「釜」は、大量の食材を水から煮あげる調理器具のこと。
- ii 火にかけて中に入れたものを加熱する器具のこと。
- iii 熱を材料、食品に加えるための器具。

私の絵による説明の方がまだマシ。風呂釜では、私達は材料になってしまうみたい。

仕方なく、昔の生活風俗に関する本を引っ張り出してきて、読み直すことになりました。ホントは、こんな暇ないんだけど、何となく引っかかったままだと気持ちが悪いですよね？

どうでもいいって？

まあ、そういわず。

釜は、鼎（かなえ）が語源。

鼎って知ってますよね。

足が三本あって、火の上において、お湯を沸かすためなどに使うヤツ。

基本的に、火からの距離を加減することが難しいから、中に入っているお湯などを吹きこぼれないようにするためには、燃やすものの量をコントロールすることで、火力を調整するしかないのですね。

これに対して鍋の方は、ツルや取っ手が付いていて、これで釣り下げることによって火からの距離を調節できるので、火力はそのままでも一定の温度を保つことができるしかけが付いている。

よく、東北や信州の田舎に行くと、今でも、囲炉裏が残っていますが、その上には、自在鉤が付いていて、そこに鍋のツルを引っかけて、上下させることで調理の加減をするのですね。

(下の写真は、囲炉裏にかけた鍋と自在鉤。出典ウィキペディア)



これからわかるように、鍋は、囲炉裏と切っても切れない関係にあって、囲炉裏文化圏では、ご飯を炊くのも、煮物を料理するのも、鍋でやったのですね。

ところが、文化程度が進み、外のすきま風を遮断できる家屋ができるようになってくると、比較的気温の高い地方では、いつもいつも居室の中で囲炉裏に火を保つ必用がなくなり、米を常食にしている地域では、居室の外で、竈（かまど）を作り、そこに釜を乗せて、炊いたり、蒸したりするようになってきます。

(右の写真は、竈とお釜。蒸し器も乗っています。)



米を常食としていた九州、中国、近畿、関東では、囲炉裏が廃れ、竈に変わっていき、釜も飯釜と湯釜に分化し、囲炉裏は火鉢やコタツに姿を変えて行くことになります。

他方で、比較的寒い地方では、依然として居室内に囲炉裏を切り、鍋で炊飯し、煮炊きをする生活が存続します。

この長く続いた状況を一変させたのが、コンロらしく、火力の調節ができ、いつでも付けたり消したりができるようになって、鍋全盛時代が到来します。

鍋と釜、我が国の食や文化と切っても切れない深い関係にあることをなんとか理解しました。

これで、もし、次に質問されてもカンペキ。
でも、誰も質問しそうなあ。

ところで、この鍋と釜、ひらがなやカタカナで書くと意味が違ってきますが、御存じですよね。

「おかま」が、男性の同性愛者や女性のように装い、振る舞う男性を指すことは、よく知られていますが、

「おなべ」は、逆に、男装して男性のように振る舞う女性、或いは女性同性愛者のうち男性の立場に立つ女性をいいます。こちらの方は、余り知られていませんね。

最近、お釜が姿を消し、お鍋全盛時代を迎えているのとは、関係ないですよね？

12.12 タバコの値上げとキセル

今年の初めに行われたタバコの値上げで、この一年、紙巻きタバコの売れ行きは大幅にダウンしたそうですが、意外なことに、刻みタバコの売れ行きが増えているそうです。理由は、

- ① 紙巻きタバコの値上げに比べて、刻みタバコの値上げ幅が極めて小さかったこと
 - ② キセルでタバコを吸うのがカッコイイと思う若い方々が出てきたこと
- にあるようです。

実は、JTが今でも刻みタバコを販売しているなんて思っていなかったもので、私、このニュースは、ちょっと新鮮に感じました。

もちろん、私は喫煙しませんし、隣でタバコを吸っている人を見ると、眉をひそめる一派なのですが。

JTが今でも売っている刻みタバコの銘柄は「小粋(こいき)」360円と刻み煙草の売れ行き向上で気をよくしたのか新発売された「宝船」500円



時代劇をみていますと、小またの切れ上がった姐さんが、ポンと煙草盆のついた長火鉢の端にキセルを打ち付けて吸い殻を灰の中に落とす仕草などは、粋で惚れ惚れしてしまいます。

今はなかなかこの仕草が似合う姐さんがいなくなりましたが、江波杏子さんなどはよかったですねえ。

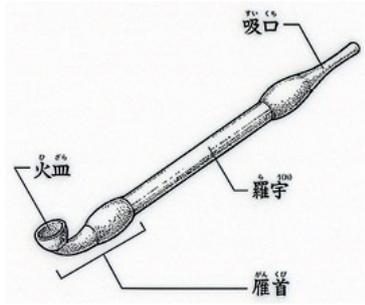
今なら、黒木メイサさんにやらせてみたいような気がします。

ただ、この前、若い方々に「キセルの話」をしたら、キセルを知っていたのは、1人だけ。

仕方ないので、説明したのですが、これがなかなか難しい。

結局、口で説明してもわからないので、黒板に結局下手な絵を描くことになりました。

下の写真は私が書いたのよりずっとわかりやすいキセルの絵。



ところで、そのキセルですが、両端の部分（雁首と吸い口）が金属(普通は真鍮)できているのに対して、この端の雁首と吸い口をつないでいるのは、竹ですね。

この竹、昔は、わが国の竹ではうまく加工できなかった。キセルがわが国に入ってきたのは、天正年間（1500年代の終わり）ですが、この頃は、東南アジアから輸入していたらしいのですね。

その後、国産の矢竹などを使えるようになったのですが。

私が子供の頃、まだキセルを使う人は結構いました。

私のお祖父ちゃんも使っていました。

タバコの銘柄は「ききょう」だったかな。

お祖父ちゃん、吸った後のまだ少し赤い吸い殻を手の平にぼんと乗せて転がしながら、片手で火皿に新しいタバコを詰めて、赤い吸い殻から火を移す。まるで手品を見ているようで、ずっと飽きずに眺めていた記憶があります。

このキセル、カッコイイのだけれど、吸っているうちに、ヤニで穴が詰まってくるから、結構な頻度で掃除をしなければいけなかったようで、お祖父ちゃん、上手に紙縊（コヨリ）を作って、これを穴に通して掃除をしていました。

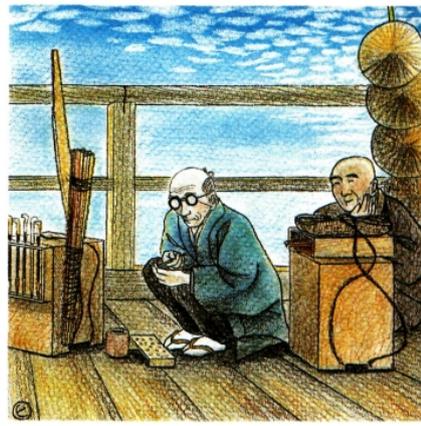
今は紙縊を作れる人なんて滅多にいないので、J Tさん、パイプ用のクリーナーを売っているようです。

昔、近所には、時々、「らうやさん」が回ってきて、掃除をしてもらったり、竹を替えたりしていました。子供心に、うっすらと覚えています。今でいうと、焼き芋屋さんみたいに、煙突の先から「ピー」って音がでる屋台のようなものを曳いていましたね。

「らうや（羅宇屋）」って変な名前だっけ？

これ、キセルの真ん中に使う竹、昔は主にラオスから輸入していたからなのですね。

ちなみに、下の写真は、昔、街の中を回っていた「らうやさん」。



右の絵は、杉浦日向子さんの「江戸アルキ帖」（天保2年吾妻橋の笠屋と羅宇屋の情景）から借用しました。